

みなさんの意見のまとめとメインファシリテーターとしての整理

1. 基本方針の方向性の確認

公の緑を区民が安全・安心の中で生き活きと利用するために、**区民協働を実質化**していく
私の緑を**地域の共有の財産**にしていく

落ち葉や剪定枝を有効活用して、**楽しくリサイクル**する

緑の維持管理方法の情報を共有し、区民が参加しながら、より**質の高い管理**を目指す

2. 基本方針に関する補論

【公の緑】・公園や憩いの森などは、多くの人に使ってもらうことが一番の安全・安心管理になる

・アマチュアでも剪定できる樹木に必要なに応じて更新していく

【私の緑】・樹木をあまり大きくせず、必要なに応じて**更新していくというサステナビリティ**も検討

【剪定の仕方】・区とアマチュアの役割分担の明確化

・樹木を更新していくシステムづくり（住民円卓会議）

3. 具体的提案

【公の緑】・公園別に**プレーリーダーの配置**

・大公園には**カフェやレストラン、森の保育園**などの設置も可能なようにする

・アマチュアによる樹木の剪定、樹木の更新

【私の緑】・憩いの制度（公開の日時を所有者さんがコントロールできる等）の検討

・**オープンガーデンやストリートガーデン**によるコミュニティづくり

・落ち葉対策チームの結成（樹木の周り 50m の住民の円卓会議）

・大きな樹木の下で**地域パーティ**の開催

【落ち葉と剪定枝】・**落ち葉祭り、剪定枝芸術祭**の開催

・落ち葉と生ごみでリサイクルして腐葉土とする

・**剪定枝資源化センター**の設立（参考：武蔵野市）チップ化

・落ち葉と生ごみをリサイクルして学校で腐葉土をつくり、区民に配布

【剪定の仕方】・公園や憩いの森での**剪定講座**の開催

・アマチュア剪定士制度の検討（剪定士クラブ、緑化協力員同窓会）

全体スケジュール（予定）

年度	平成28年度				平成29年度							
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
みどりの 区民会議	第1回 12/15			第2回 3/16		第3回 5/11	第4回 6/22		第5回 8/24			

みなさまからの 声 を募集中です！ 感想やご意見などをお寄せください！

練馬区みどりの区民会議事務局（環境部みどり推進課みどり協働係 中原）

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1 練馬区役所本庁舎18階

電話 03-5984-2418 FAX. 03-5984-1227 電子メール midorisuisin04@city.nerima.tokyo.jp

第3回 練馬区 みどりの区民会議

「テーマ別のみどりを守り育てる「協働」や「管理運営」についての意見交換」

平成29年5月11日（木） 18:30～20:30

練馬区役所本庁舎20階交流会場

第3回では、22名にご参加いただき、これまで出てきた課題の解決策や区民共有財産としてみどりを守り、育てるための新しいアイデア、区民協働の仕組み、管理運営方法などの実現化をめざし、テーマごとにより具体的に話し合いを行いました。

<実施内容>

・前回の意見に関する報告

・前回の振り返り、話し合うテーマ、区民会議の目指すところの説明

・**テーマごとのワークショップ**

公園・憩いの森等を区民がもっと自由に利用できるようにしよう！
お庭・屋敷森等を地域の共有財産として親しみながら守っていきこう！
落ち葉・剪定枝を協働でリサイクルする仕組みを考えよう！
剪定の仕方等、地域別の適切なみどりの管理方法を考えよう！

・各班からの発表と全体での意見交換

・今回のまとめ

・今後のスケジュール確認



前回の振り返り



テーマ別のワークショップでの意見交換



各班からのワークショップ意見発表



全体での今回のまとめ

これまで挙げられた課題や提案を基に、4つのテーマに分かれて具体的に「区ができること」「区民ができること」を話し合い、さらに、実現への課題や仕組みなどについても意見を出し合いました。各テーマで、話し合いの中心となった事柄が「直面している課題」であったり、「これからの解決策」であったりと特色が出てきましたが、今後の実現化に向けてさらに話し合いを重ねて具体化していきます。

テーマ 公共のみどり

公園・憩いの森・花壇を区民が もっと自由に使えるようにしよう！

- 課題 ・利用されていない公園や憩いの森が多い！
・お金をかけているのに機能しておらずもったいない！
- 目標 ・地域に1つ！地域の方が見守る『みんなの庭』のような公園・森・花壇
・「権利」と「責任・義務」の両立

まさに公園を利用しているはずの子育て世代や、公園管理団体、みどりに係る活動団体、造園業者、学生など様々な立場の方が集まったテーマ①の班では、子どもの声や地域の声、および今後の区や区民の情勢を踏まえたリアルな意見が挙がり、課題からその解決策となる具体的なアイデアが話し合われました。

< Step 1 計画づくり >

地域で公園ワークショップ！

区民や区が直面している課題

- ・どんな公園があれば利用されるのか、地域のニーズが把握できていないから利用されていない公園が多いのではないかな？

解決策などの提案

1. 地域に必要なテーマの公園を話し合う！

区と区民ができること

- ・地域の方に集ってもらい、地域の既存の公園を調べて、活かす！
地域の区民のニーズを把握する！
地域に必要なテーマの公園を話し合う！
- ・子どものやりたいことを代弁する大人、コーディネートする人が必要。
- ・利用しやすく、人が集まる公園づくりを行う。
- ・地域で各公園の果たすべき役割を整理する。

2. まずはモデル地域でやってみる！

- ・例えば、各地域に農業公園があればよいという訳ではなく、まず、モデル地域で農業公園をやってみて、よければ他の地域でもやってみる。

ワークショップの内容を要約・整理して掲載しています。

< Step 2 利用・活用 >

各地域に合った「テーマ別の公園」を！

- ・利用されていない公園が多い。
- ・子どもが公園でボール遊びをしていたら通報されて、怖くて公園に近寄らなくなってしまった。
- ・区内一律の利用(ルール) 管理だから利用されていない公園が多いのではないかな？

3. こんなテーマの公園・憩いの森があるといいな！

- ・小学生が使える公園(ボール遊びのできる公園など)
- ・子どもたちがこどもの森や光が丘公園のように、自然にふれて自由に遊べる「プレーパーク」
- ・子どもたちが外遊びできる、自然の残る「憩いの森」は魅力的
- ・大人がお花を植えて楽しめる公園
- ・親子で野菜をつくることができ、農業に親しめる公園「農業公園」

4. 地域で利用方法やルールをつくる！

- ・各公園で利用方法とルールをつくることでリスクマネジメントできる。
- ・年齢層(小さい子、大きい子、親子、大人、年配の方など)や用途を考える。
- ・1つの公園内でも、時間帯やエリアで利用を分けることもできる(ケガを防ぐ)。

参考) 公園利用の年齢層と時間帯

午前中：保育園児、 午後1～3時：お母さんと幼稚園児、
午後3時～：小学生

< Step 3 管理運営 >

住民参加による持続的な公園運営！公民連携で民間の力を活かす！

- ・区だけでは一律の管理しかできない。どうすればテーマ別の公園の管理運営が持続できるのか？
- ・財源が厳しくなるこれからの時代に、区の委託費(予算)にも限界がある！
- ・生活が厳しくなるこれからの時代に、区民のボランティア(無償)では限界がある！
- ・こどもの森はともよいが、他の地域の区民は遠くて気軽に行くことができない。もっと増やすことはできないのだろうか？
【区より】こどもの森は事業者へ運営委託をしており、増やすのであれば予算が必要。まずはここで子どもたちにみどりを好きになってもらう啓発事業の意味を込めている。

5. 区民がボランティア(無償・有償：区から実費程度)で出来ることをする！

- ・地域の人がテーマを考え、つくった公園なので、地域の人が出来るところを担っていく。
例) 公園の見守り(地域交流の場にもなる。地域パトロールの保護者の力も借りる。)
- ・継続して地域が関わって管理運営していく仕組みづくりが大切。継続が難しい。
- ・年齢層に合った興味のある関わり方を考える。やりがいや楽しさがないと続かない。
例) 好きなお花を植えることができる。お手入れ後に森や畑の恵みがもらえるなど
- ・学生がアルバイトでプレーリーダーを担う。

6. 既存の公園住民自主管理の仕組みを活かす！

- ・公園の住民自主管理・・・現在は、町会・自治会中心で、小さい公園でゴミ拾い、トイレそうじ、2m未満の樹木剪定、施設点検による危ないものの通報などを行っている。

7. 区から委託や指定管理を受けて、売上の一部を運営費に充てる仕組みをつくる！

- ・活動団体、NPO法人、事業者が公園の一部でカフェ、保育園、自然塾、フリーマーケット(ファーマーズマーケット、マルシェ)等を行い、売上げの一部を公園の管理運営費に充てられるようにする。
- ・地域で雇用を生み出し、お金もまわり、みどりも守れる仕組みをつくる。事業者が公園の管理の一部を担い、公園施設使用料や売上げの一部を公園管理運営費に充てる。

例) 「農園保育園」・・・農地運用による保全 親たち就労・就農支援 農家の担い手育成
子どもが土とふれあう(親子で野菜づくり)、食育、みどりへの啓発
待機児童問題への対策 お金もまわる

参考) ・カフェ経営や住民参加運営の仕組み 南池袋公園(カフェ売上げの一部を地域還元費)
・カフェ・レストラン 上野公園など ・森の幼稚園 ドイツ、長野、東京など
・保育園 代々木公園、祖師谷公園(世田谷区。地域住民との交流のためにカフェも併設)

テーマ
民有地のみどり

お庭・屋敷森・農地など民有地のみどりを地域の共有財産として育てて守っていきこう！

実際にお庭や屋敷森を所有する方、自分の家の周辺に大きな木がある方が集まったテーマ②の班では、メンバーが当事者として「今まさに直面している課題」から、解決へのアイデアをまとめました。

- 課題
- ・樹木の飛び出しや落ち葉、土埃への苦情がくる
 - ・高齢になり樹木の管理が難しい
 - ・相続税、固定資産税等の税の負担が大きく維持できない
- 目標
- ・大切な木、地域のシンボルになっている木や広々とした農地の存在を地域で共有し、『みんなの木・みんなの庭』として残していく！
 - ・みどりの多面的機能・効果の周知・共有・見える化

当事者が直面している課題

1. 大きい木の剪定ができない

- ・ 個人での剪定は無理。
- ・ 業者に頼むとお金がかかる。
- ・ 保護樹木や保護樹林にできるほど大きい木ではない。
- ・ 管理が大変という理由で、家に木を植える際に高木ではなく低木を植える人が多い。

高木はまさに緑陰をつくってくれるし、家の劣化も防いでくれる。そういった高木の良さも再認識していきたい。
ご近所さんで落ち葉掃きを手伝ってくれる人もいる。

解決案など

- ・ 保護樹木より小さいが、個人で剪定しきれない木に対して補助する制度ができるか？
- ・ みどりの価値の共有が地区の中でできないか？

2. 税金の負担が大きい

- ・ 税金の負担を軽減するため、憩いの森にしては？と提案を受けたが、憩いの森にすると24時間開放が原則なので、家の周りの屋敷林を憩いの森にすると防犯面が心配。
- ・ 税金の負担は深刻で、庭を売るより他ない。現存する庭の木を大事にしてくれる人に売りたいが、「更地にして売らないと価値が下がる」と言われている...

世田谷区の市民緑地では夜は敷地を閉めている。

- ・ 憩いの森を、夜間は閉じることはできないか？
- ・ 木のある庭が欲しい人と、木を残して土地を売りたい人をつなげられないか？

3. オーナーと地域住民との意思疎通の場がない

- ・ オーナーの想いと、周囲の住民の想いとが、お互いに伝えられない。(大変に感じていること、木に愛着を持っていることなど)
- ・ 個人の持ち物なので、区が間に立って管理方法などについて話すことができない。(町内会は仕事が多く、請け負いきれない)
- ・ 地域のみどりを残したいという想いは共通のはず。語り合う場が欲しい。

- ・ 周辺1km程度の住民で、何かお手伝いできることはないか？話し合う場が欲しい。
- ・ 窓口となる機関や、話し合いの場で第三者の立場の人が欲しい

4. その他

- ・ 家の周りで、隙間が空いた生産緑地が多い。空いているスペースを何かに使わせてもらえないか？

区民会議を通して今後提案できそうなこと

1. 制度の見直し

既存の民有地のみどりに対する制度を、現在の練馬区の状況に合わせて見直し、区民がより使いやすくする提案

2. 消失するみどりを少しでも減らす方法

木を残して土地を売りたい人と、木のある土地が欲しい人をつなぐしくみに向けた提案

3. ご近所のみどりについて相談できる窓口

お庭や屋敷森のオーナーとご近所の人々をつなぐ、第三者的な機関についての提案

4. 地区の中で民有地のみどりを支える方法

オーナーだからこそ分かる、「手伝ってもらえたら嬉しいこと」をリスト化。ご近所の人々が気軽に手伝えるしくみに向けた提案

テーマ
落ち葉・剪定枝
のリサイクル

落ち葉や剪定枝を区民協働で 有効活用・リサイクルしよう！

課題 ・周囲から迷惑物扱いされる
・雨樋に落ち葉がつまる 清掃ボランティア、助成金必要
目標 地域コミュニティベースでリサイクル
(昔の良きコミュニケーションづくり)
経済ベースでリサイクル

テーマ③のテーブルには、農家・造園業者・みどりに関わる活動団体の方が集まりました。経験を基にした知識や実体験を交えながら、アイデアを出し合いました。

<Step 1 ふれあう・楽しむ>

落ち葉・剪定枝に対する安全宣言

「ふれあう・楽しむ」に対する課題

- ・農家は畑に落ち葉を集めて、堆肥づくり体験をさせたりできるのだが、放射性セシウムの問題で、外から落ち葉を集められない。
- ・公園も農地も、現状、落ち葉・剪定枝を外から持ち込めない。また、外に持ち出して活用できない。

解決策などの提案

1. 放射性物質の含有値を調べる

区ができること

- ・研究機関や落ち葉・剪定枝の回収業者に依頼をし、放射性物質の含有値を測定する。
- ・安全であるといえるデータが集まった場合、国および都と協議を進める。

<Step 2 集める>

回収場所・ルールをつくる

「集める」に対する課題

- ・リサイクルするための回収場所（ストックヤード・腐葉土箱等）が少ない。
- ・石や繊維の多い植物の葉が混ざったまま回収すると、腐葉土が生産しづらい、腐葉土として機械で撒く際、石が飛んで危険、機械の故障等の問題が発生する。

解決策などの提案

1. 回収場所をつくる

区ができること

- ・公園や公道上に回収場所の設置
- ・石と落ち葉・剪定枝を選別できる回収箱の設置
- ・回収～リサイクルが出来る施設の建設
- ・清掃・回収を同時に行える車両の導入

2. 回収ルールを作って守る

区ができること

- ・有識者と共に、回収ルールの策定

区民ができること

- ・回収ルールに従って回収する

<Step 3 有効活用する>

臭わず早く腐葉土化

「活用する」に対する課題

- ・腐葉土をつくる過程で悪臭が発生する。
- ・石や繊維の多い植物の葉が混ざったまま腐葉土化すると、腐葉土が生産しづらい、腐葉土として機械で撒く際、石が飛んで危険、機械の故障等の問題が発生する。

解決策などの提案

1. 悪臭を減らすものを混ぜ込んで、腐葉土を生産する

区民ができること

- ・業者に依頼し、コーヒー豆のカスを提供してもらう

2. 一次破碎して活用する

区民ができること

- ・落ち葉を一次破碎し、石など不純物を選別してから腐葉土化する。繊維の多い植物の葉を腐葉土化しやすくする
- ・剪定枝は一次破碎しても枝の形を残しているため、木工細工等に活用する

<Step 4 配布/販売する>

腐葉土・チップの活用方法

「配布/販売する」に対する課題

- ・販売できるほどの量を生産できるとは考えづらい。運送費等支出も増える。
- ・チップは、公園など大規模な敷地に使用する目的でなら、購入もありえるが、個人使用の目的（燻製・焚き火用、炭など）で、多くの購入があるとは考えづらい。

モデル事業の仕組みづくり

区ができること

- ・モデル事業の仕組みを、区民も交え検討する。
- ・モデル事業を実践する候補となる団体・地区を選考する。

区民ができること

- ・モデル事業の仕組みを、区と共に検討する。

ワークショップの内容を要約・整理して掲載しています。

テーマ
剪定・管理方法

剪定や具体的な維持管理方法をより良くし、質の高いみどりにしよう！

- 課題 ・強剪定すると苦情がくる...する方も心苦しい
 ・季節外れの剪定で花が咲かない
 ・強剪定するとノしないと困ることは？
- 目標 ・公園、道路ごとのローカルルールに基づいた、管理、運営への参加

「区民との協働でまちなかのみどりの管理を行うことで、質の高いみどりがまちに増える」ことを前提に、具体的な管理や仕組みづくりのアイデアを話し合いました。

1. 公園の枯れ木の補植・樹木の更新を協働で

課題 <ul style="list-style-type: none"> 古い公園では枯れ木が多くなっている。 将来を見据えた計画（配置、間伐などの管理）が必要 	
解決のためのアイデア 樹木を環境に合わせた配置に変えていく、そうした計画をつくる 計画作りには、地元の意見も聞いてほしい。（よく人が通るところだから枯れてしまう...など）	区ができること <ul style="list-style-type: none"> 住民と、公園樹木の選定についてのガイドライン・計画づくりをする 昔つくられた公園はプラタナスなど大きくなる木が植えられているところも多い。ハナミズキやサルスベリなどに変えていく必要があるのではないかと。ただ、どこもハナミズキばかりになってしまうが...
補植を区だけでなく区民と行う	区民ができること <ul style="list-style-type: none"> 区民グループが中心となって補植活動を区民に呼びかけて実行していく 町会に呼びかけるのは一案だが、町会の半分くらいは、公園は区が管理するものと思っている。区が依頼すると上から目線のように感じられてしまう。区民に呼びかけるには区民からの方が効果的。説明を根気強く。

3. 適切な剪定方法についての理解を広げる

課題 <ul style="list-style-type: none"> 強剪定をすると苦情がくる...する方も心苦しい 	
解決のためのアイデア 適切な剪定方法の理解を広げる 地元の声を聞く、聞ける体制づくり	区ができること <ul style="list-style-type: none"> 剪定についての周知方法の工夫 地域のみどりの円卓会議を開き、情報・知識を共有
	区民ができること <ul style="list-style-type: none"> 地域のみどりの円卓会議を開き、情報・知識を共有 公園、道ごとのみどりのリストを作り、樹種や剪定方法についての円卓会議を行い、情報共有や意見交換を行うことで、すれ違いを減らすことができるのではないかと。寸胴剪定の木も、みんなでその後の成長を観察し、楽しめるみどりに

2. こまめに剪定できるみどりを増やし、質を維持する

課題 <ul style="list-style-type: none"> 野放しにされているみどりが増えている 季節はずれの剪定で花が咲かないと苦情がくることも 	
解決のためのアイデア 中低木の剪定管理は区民にまかせる ユキヤナギなど、育ちが早い植物の剪定は、予算が限られている区より、区民がこまめに管理をした方が、質が保たれる すぐ道路に出てしまうような成長が早いものは公共施設には植えない	区ができること <ul style="list-style-type: none"> 区民でも剪定しやすい、脚立が届く程度の中低木を植えていく場所に合わせて大きくしない剪定の仕方を取り入れられないか。木の大きさをコントロールできたらよい 区による剪定の講習を設けて剪定できる人を増やす
	区民ができること <ul style="list-style-type: none"> 公園の自主管理は、そのまま継続する 低木でも剪定の講習を受けて行う 【その他】 ・樹木の育成状況の報告など見守りや見回りも同時にできるとよいのではないかと ・実生木の情報（計画的な公園管理のために）

4. 窓口や体制づくりをして、協働を進める

課題 <ul style="list-style-type: none"> 現状、区民が公園などのみどりの管理に携わりたいと思っても、区のほうでそれを受け入れる体制がない。 	
解決のためのアイデア 協働していくためのルールや窓口体制づくりをする	区ができること <ul style="list-style-type: none"> 協働の提案、受け入れ方のルールづくり、窓口体制づくり 役割分担をしっかりと共有したい 区と区民とで動きがバラバラにならないよう、目指す方向をいかに共有するか？
	区民ができること <ul style="list-style-type: none"> みどりが好きな人が集まりやすい、続けやすい活動づくり 区との方向性の共有 【その他】 緑化協力員の制度は、みどりに関わりたい、役に立ちたいと思う人が集まるにはとてもよい制度。ブラッシュアップをしていけないう。

ワークショップの内容を要約・整理して掲載しています。